- Mirai Sozo Symposium -

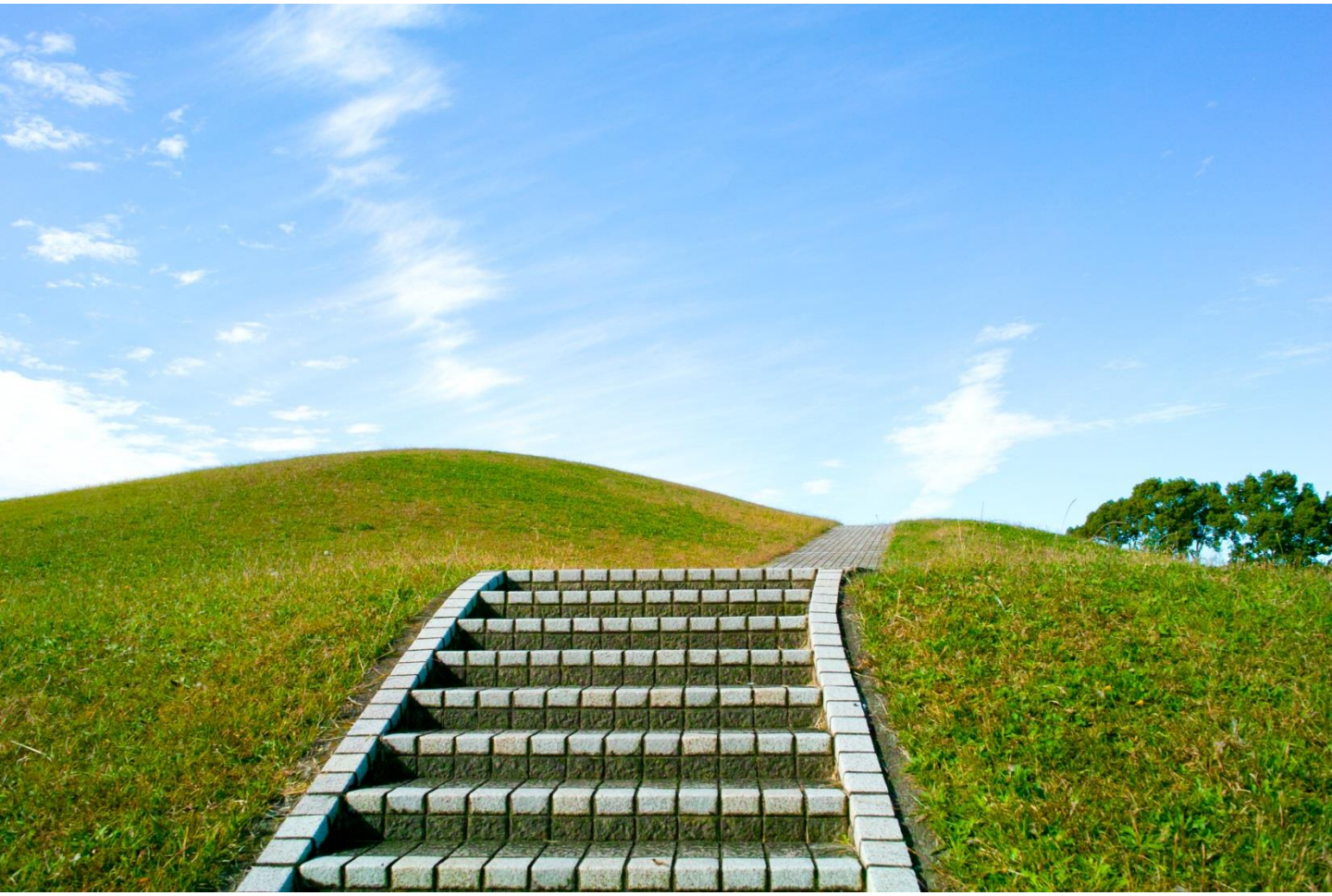
未来創造シンポジウム

- The future is up to you! -

あたなの力が世界を変える

実施報告書

2018年11月21日(水)



TAMA UNIVERSITY 多摩大学　KEIO　多摩信用金庫　多摩市

目次

「主催者挨拶」 ---------- 2
「シンポジウム概要」 ---------- 3
「シンポジウム結果」 ---------- 3
「講師紹介」 ---------- 4
「第１部　基調講演」 ---------- 5
「第２部　パネルトーク」 ---------- 6
「シンポジウムに参加して」 ---------- 7
「アンケート結果」 ---------- 8
「講師から若者へのメッセージ」 ---------- 9

主催挨拶

「素晴らしいシンポジウムだった。」参加した皆様の多くも同じ思いではないでしょうか。

講師のお二人の圧倒的な熱量に感動しました。「あなたの力が世界を変える」というテーマにふさわしいワクワクするお話のシャワーをたっぷり浴びて勇気をもらいました。印象的だった言葉は「繰り返し努力することが一番大切」、「共感力」「感謝力」「楽観力」が大切ということ。また、講師と並ぶくらい素晴らしかったのはパネルトークに参加の若者代表３名の皆さん。率直に意見をぶつける姿には頼もしさを覚えました。

このような、「未来に希望を感じることができる」シンポジウムに４者共催の一員として参加できたことを感謝するとともに、多摩地域に根差す企業として、地域の役に立てるよう、今後も関係する皆様方と共に努力してまいります。

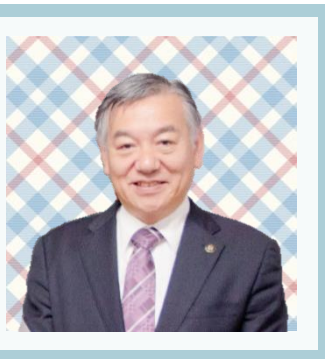
京王電鉄株式会社
沿線価値創造部長
古屋　圭子

多摩信用金庫
常勤理事
辻　伸敏

「シンポジウム」を聞いて

多摩大学
総合研究所教授
松本　祐一

東京都
多摩市長
阿部　裕行



躍動するシンポジウム。そんな表現がぴったりのイベントだったのではないでしょうか。お二人の講師の熱のこもったご講演、想いをもった若者たちとのパネルトーク。刺激的なメッセージや鋭い質問の応酬で、純粋にもっと聞きたい、話したいと思うシンポジウムでした。

多摩市、多摩信用金庫とともに創業支援を始めて８年。「暮らすと働くが一番近いまち、多摩」を目指して創業支援施設の運営等に取り組んできました。今回のイベントでは、京王電鉄様にも参画いただき、多摩市内の産学金官の連携で新たなうねりを生み出せたことは、私たちのネクストステージを象徴するものになったといえます。未来は私たちで創造するもの。あの場にいた者なら信じられる言葉です。希望と勇気をもって進みましょう。

たましんは、地域金融機関として、多摩の明るい未来の実現に向けて、長期的視点に立ち、お客さまにどのようなご支援ができるのか、地域に貢献できるのかを常に考え、前向きに取り組んでいます。

本シンポジウムにおける多摩市出身の2名の講師による参加者への熱のこもったメッセージは、未来に向けて行動を起こす勇気が湧いてくる素晴らしい内容だったかと思います。この日を機会に未来を変える新たなリーダーが生まれることを心より願っております。

本シンポジウムの開催にご尽力いただいた各関係者の皆様には心より感謝申し上げます。

引き続き、たましんも未来を見据えて、お客さまの事業やくらしの相談、文化の向上、地域経済のさらなる発展に広く取り組んでまいります。

とても刺激的な時間でした。グローバルな世界で活躍するお二人に貴重な時間を割いていただいたことに感謝申し上げます。

多摩市での豊かな暮らしと対極的な海外での貧困の現実を目の当たりにし、子どもたちの教育、健康、食に目標を定め、必死に賛同者を求め奔走されたお二人の感動的な軌跡とご努力の成果に脱帽です。

若い皆さんとのトークも印象的でした。常識にとらわれず、自分の殻に閉じ篭らず、まずは、一歩踏み出したいと夢を話された皆さん。熱き情熱と強い意志こそ道を開く鍵と思います。私も皆さんのチャレンジを応援します。

夢の実現に向けて。

シンポジウム概要

名称 ： 未来創造シンポジウム ～あなたの力が世界を変える～

日時 ： 平成３０年１１月２１日 (水) 10：15～13：15

会場 ： パルテノン多摩小ホール　　定員 ： 300名

共催 ： 多摩市・多摩大学・多摩信用金庫・京王電鉄株式会社

協力 ： 多摩市文化振興財団

内容 ： 第1部では、基調講演として、世界を舞台に活躍する多摩市出身の社会起業家2名を講師に招き、生まれ育った多摩市での暮らしから、現在の成功に至るまでの経験をご講演いただく。
第2部では、第1部の講師に加え、大学教授及び申込者の中からランダムで選んだ若者にご登壇いただき、パネルトークを実施する。
いずれも「社会を変える」をテーマとしており、若者を中心とする参加者に対して、「より良い社会」を実現するために、「未来に向かって挑戦することの重要性」を発信していく。

当日プログラム

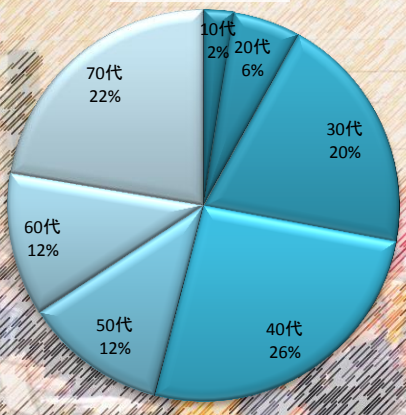
『 開演 』
10：15 - 10：30　開演、主催挨拶
『 第1部 』
10：30 - 11：15　出雲氏講演
10：15 - 12：00　小林氏講演
『 第2部 』
12：10 - 13：10　パネルトーク
『 閉演 』
13：10 - 13：15　閉演、主催挨拶

シンポジウム結果

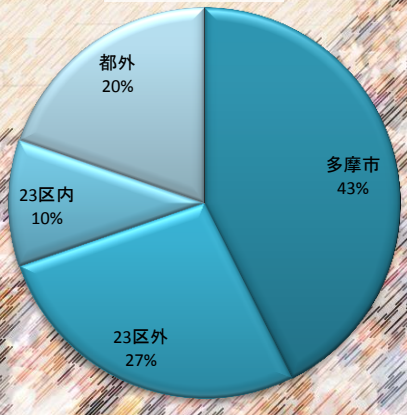
参加実績

申し込み：300名　　参加者：264名

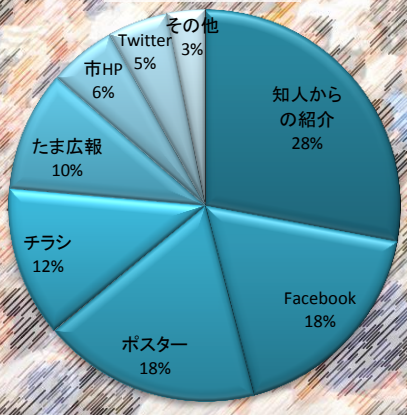
参加者内訳 (年代)



参加者内訳 (居住地)



参加のきっかけ



広報・ＰＲ

ポスター　：京王線・京王井の頭線・京王相模原線主要駅、京王S.C.店舗、多摩信用金庫本支店、市内公共施設　等
チラシ　　：上記に加え、近隣大学、都内創業支援施設、都内自治体(企画部門及び産業振興部門庶務課)、
　　経済産業省、東京都教職員研修センター、中小機構、近隣金融機関、ネットワーク多摩　等
ネット媒体：Facebook(専用ページ立ち上げ、有料広告)、市公式HP、市公式Twitter、多摩市広報部員Instagram　等
紙媒体　　：タウンニュース、共済通信CIRCLE、パルテノン多摩NEWS、たま広報　等

講　師　紹　介

出雲　充　氏

株式会社ユーグレナ代表取締役社長

多摩市出身

駒場東邦中・高等学校、東京大学農学部卒業後、2002年東京三菱銀行入行。

2005年株式会社ユーグレナを創業、代表取締役社長就任。同年12月に、世界でも初となる微細藻類ミドリムシ（学名：ユーグレナ）の食用屋外大量培養に成功。

世界経済フォーラム「ヤング・グローバル・リーダーズ」選出、第一回日本ベンチャー大賞「内閣総理大臣賞」(2015年)受賞。著書に『僕はミドリムシで世界を救うことに決めた。』（小学館新書）がある。

小林　りん　氏

学校法人ユナイテッド・ワールド・カレッジ
ISAKジャパン代表理事

1998年 東京大学経済学部卒、
2005年 スタンフォード大学教育学修士

前職では国連児童基金(UNICEF)のプログラ ムオフィサーとしてフィリピンに 駐在、ストリートチルドレンの非公式教育に携わる。圧倒的な社会の格差を目の当りにし、リーダーシップ教育の必要性を痛感。学校を設立するため、2008年に帰国、2014年に日本初の全寮制国際高校を軽井沢にて開校。2012年世界経済フォーラム「ヤング・グローバル・リーダーズ」選出、2013年日経ビジネス「チェンジメーカー・オブ・ザ・イヤー」、2015年日経ウーマン「ウーマン・オブ・ザ・イヤー」大賞、2016年財界「経営者賞」など受賞。

多摩市出身

基調講演１「ミドリムシで世界を変える」

努力を続けるための鍵、
それはメンターとアンカーを見つけること

メンターとは、自分が心の底から尊敬できる師匠
アンカーとは、そんな師匠との約束を思い出せる品
私にはそれがあったから、何度失敗しても、挑戦を続けることができた

大人の皆さん
自分の子どもが、若者が、自分の常識とかけ離れたことをしようとしている
そんなときに、否定しないでほしい
「いいね！」と言ってあげてほしい

適切な科学と繰り返し努力できる力、それがあれば、奇跡は誰にだって起こすことができる
私はそう信じている

**You work hard over and over,
you can make miracles happen.**

**Pessimism comes from the temperament,
optimism comes from the will.**

基調講演２「リーダー教育で世界を変える」

私が大切にしている３つの力がある

ひとつは共感力
原体験の力といった方がいいかもしれない
自分を突き動かす原体験は、他人を突き動かす力になる

ひとつは感謝力
自分ひとりの力ではできないことが、人の力でできるようになる。仲間がいれば、大きな壁も乗り越えられる

ひとつは楽観力
不安は伝播する。しかし、何があっても、「絶対に乗り越えてみせる！」という意志を持っていれば、その気持ちが伝播する

若い人は、自分の原体験になるような挑戦をしよう
そして、仲間とともに、意志ある楽観力をもって挑戦を続けよう

第２部　パネルトーク

パネルトーク前半は、多摩大学総合研究所松本教授をコーディネーターとして、第1部の基調講演を踏まえ、講師2人の人生の転機等について深堀りする内容で進行しました。
パネルトーク後半は、前出の３名に加え、若者を代表してさらに3名の方にご登壇いただき、若者から講師のお二人に質問を投げかける形で進行しました。

Q「お２人が自分の道を見つけたきっかけについて教えてください」

Ａ『快適なところから出て、心を揺さぶられる経験をしたこと』

多摩ほど快適な街はない。この快適さから出て、不安を感じる場所、言葉が通じない場所、文化が違う場所に行ってみて、心を揺さぶられる経験をして、初めてわかることがたくさんある。特に若者には、外に出て、自分のことを知ってほしい。そんな中でこそ、自分の道は見つかるのではないか。これは講師のお２人からの共通のメッセージだ。

Q「育児と自分のやりたい仕事を両立する方法を教えてください」

Ａ『小さい組織で、あるいは個人で始めてみよう！』

例えばユーグレナ。社内に「ミドリムシ保育園」があり、オフィスに子どもの笑い声が響くこともある。
例えばＩＳＡＫ。教師が子どもを抱っこしながら授業をする、教室でミルクをあげている、そんな光景が日常にある。
大きい組織で、どれだけ女性が頑張っても、なかなか壁を壊すことはできないかもしれない。
そうであるならば、ベンチャー企業で、あるいは自分で起業して、ママでも、パパでも、育児と仕事を両立できる環境をつくっていけばいい。できないことなんてない。

コーディネーター
松本　祐一氏

多摩大学総合研究所教授・副所長
慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科修士課程修了。専門は事業開発論。研究のバックグラウンドは社会学、マーケティング、組織論、戦略論。学生時代にＮＰＯの立ち上げ・運営を経験、その後、マーケティング会社で商品開発・市場開発の仕事に従事し、2005年から多摩大学総合研究所准教授。2013年より現職

シンポジウムに参加して　若者代表から

田中 麻衣 さん

東京学芸大学卒業
5年間客室乗務員として国内線に乗務する。不規則な生活で体調を崩しやすかったことから健康について学ぶことを決意。NYにある教育機関に入学し、ヘルスコーチングの資格をとるために勉強中。健康で幸せに暮らす人を増やしたい

出雲さんと小林さんにお会いする直前まで、雲の上の存在だと感じておりました。しかし今の成功の裏には、何百回、何千回もの挑戦と失敗があったことを赤裸々に語ってくださり、もしかしたら私にも社会を変えることができるかもしれないと思えるようになりました。とくに女性として結婚・出産とビジネスへの挑戦は両立できるとおっしゃった小林さんの言葉にはすごく勇気をもらいました。

今回のシンポジウムを、すごかったなぁという感想だけで終わらせては、ご多忙の中パルテノンまで来てくださったお二人に申し訳ないと思います。素晴らしい先輩方と同じく多摩ニュータウンで生まれ育った私としては、後に続きたいです。

私は2019年には留学をしようと思っております。今気になっている分野は、マインドフルネスやアーユルヴェーダなどを学んで人を癒すこと、または自然豊かな多摩地域だからこそ観光客や地元の人が街を好きになり、豊かな心で暮らせる社会をつくることです。気になる分野に足を踏み入れてみて、挑戦し続け、10年後なにか人に語れるように生きていきます。

素晴らしいパワーを与えてくださりありがとうございました。

努力は必ず実る。いや、実らせるまで努力し続ける。そんな出雲さんと小林さんに強く刺激された、非常に濃密な1日でした。「成功率1%も、459回繰り返せば99%になる。」という出雲さんの言葉のように、お二人は世界を変えるべく、これまで繰り返し努力し続け、そして今もなお、現状に満足せずに強く熱い想いを持ち、努力し続けています。そんな姿がカッコよく、私も彼らのように自らの夢を実現すべく一刻も早く行動を起こしたいと強く思いました。

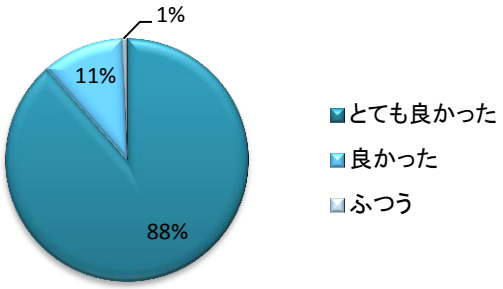
私が目指すのは、人々がdo my bestで明るく楽しく生きられる世界を構築することです。do my best とは、どんな困難にぶつかっても決して諦めず、自分の夢や目標に向かって全力で努力し続けることです。たしかに、こんな理想を掲げるのは簡単で、いざ行動を起こすとなると様々な困難が待ち受け、挫けそうになるほど大変かもしれません。しかし、困難があるからこそ、それを乗り越える度にやりがいや喜びを感じ、成長できる。たとえ乗り越えられなくても、諦めずに努力し続けた過程そのものが、その後の人生の糧となるでしょう。私はそう信じています。だからこそ、出雲さんや小林さんのようなChangemakerになり、do my bestな世界で人々を幸せにしたいです。いや、します。

北村 理紗 さん

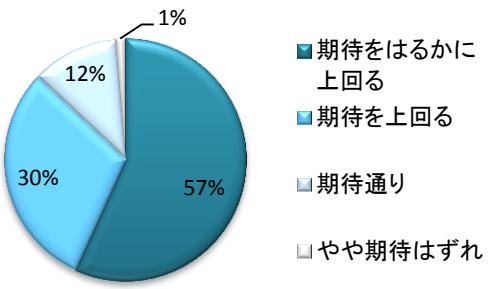
都立国際高校3年
来春より慶應義塾大学法学部政治学科進学予定
高校2年次に東京都教育委員会主催「次世代リーダー育成道場」でオーストラリアに1年間留学した経験を持つ

アンケート結果

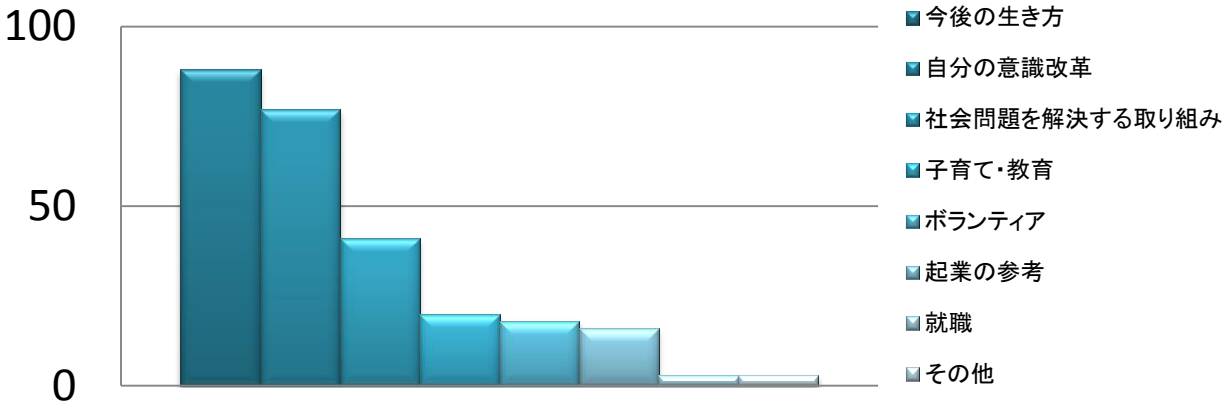
企画内容について



全体の感想



今回の話を何にいかせるか



自由意見抜粋

年代	コメント
10代	自分のこれからを考える上で、安全で快適な場所から抜けてチャレンジする精神を大切にしたいと思う。
20代	自分が常識や自信喪失から諦めていたことに気づきました。今後社会起業を目指して努力したいです。ありがとうございました。
30代	今年から「子どもを育てながら働く」という環境に変わりました。ビジネスウーマンとして、母として、両側面からお二人の話を拝聴しました。仕事で、また子育てする上でのヒントを沢山頂きました。3つ参考になったこと＝①生ぬるい環境から抜け出すこと②繰り返し努力すること③楽観力
30代	本当に本日聞かせていただき充実した幸せな時間でした。力強い面白いお話に魅了され続け、この頂いたエネルギーをもとに、努力の継続と新しい行動を起こしてまいります！本当に多摩市を誇りに思いこれからも良いまちづくりのためボランティア・子どもの教育などさせて頂きます。本当にありがとうございました。
40代	出雲さんも小林さんもお話が上手で松本先生も適切な質問・ファシリテートで大変すばらしい講演会でした。
40代	今まで参加したシンポジウムの中で一番素晴らしかったです。次の行動につなげます。
50代	多摩市がこのようなイベントをすることで、多摩市民の意識が高まり市民の社会課題への参画が増え、結果市民がいきいきと豊かな生活を送ることに繋がると思いました。
50代	熱のこもった”意志の力”の話を拝聴し、感謝しております。私も粘り強くがんばろうと思いました。パネリストの3人の方々も素晴らしい。日本の未来に期待できます！
60代	いいセミナーを開催していただきありがとうございました。多摩市に暮らして40年近くなりますが、出雲氏、小林氏のような素晴らしい人材が育っていることに安心しました。

未来を担う若者へ向けて　講師からのメッセージ

私たちの学校で大切にしているカのうちの一つに、「問いを立てるカ」というものがあります。これは、「今後どうなっていくのかな」「どういうトレンドがくるのかな」というものではなくて、自分の気持ちに対して、「自分は何が好きなんだろう」「自分は何に情熱をもっているんだろう」「自分は何にフラストレーションを感じるんだろう」という、自分に対する問いです。

この問いが、自然に「隣の人が何に困っているんだろう」「社会は何を求めているんだろう」という外向きの問いになっていきます。

内向きの問いの答えと、外向きの問いの答えがピタっと合った瞬間に、人は、結果として大きな山を動かしていくんだろうと思います。そして、その可能性は誰にでもあると信じています。

皆さんの中で、大事な問いが見つかることをお祈りしています。

学校法人ユナイテッド・ワールド・カレッジISAKジャパン
代表理事　小林　りん

多摩の志のある若者の皆さん、是非、この素晴らしい多摩をベースに、新しいところで、新しいことにチャレンジしてみてください。

一つ約束をしましょう。それは、言い訳をしないということ。「多摩だからできない」「お金がないからできない」「何かがないからできない」は全て嘘だと思っています。

私は、「ミドリムシで飛行機を飛ばす」「ミドリムシで栄養失調の子どもをゼロにする」と公言しています。日本だと、そういう大きなことを言わない方が良いと言われます。しかし、私はトップこそグランドデザインを描くべきだと思います。それに向けて、みんなでできる方法を探す。そんな姿勢が、社会を良くしていくはずです。

「〇〇だからできない」を探す時代は終わりました。

多摩から、社会を、世の中を変えるリーダーが一人でも多く出ることを心から願っております。

株式会社ユーグレナ
代表取締役社長　出雲　充

BE A CHANGEMAKER!!

未来創造シンポジウム事務局　多摩市市民経済部経済観光課